



鹿児島大学大学院
全学横断的教育プログラム
島嶼学教育コース

鹿児島大学



1. 全学横断的教育プログラムとは

近年の学問の学際化・融合化により、幅広い分野の知識と柔軟な思考能力をもつ人材が求められています。本学では、これらの社会要請に応えるための取り組みの一つとして、大学院を横断して体系的に履修するまとまりのあるプログラムを創設しました。プログラムを受講することにより、総合的な理解力や専門分野で得た知識・技術を活かす能力を養うことを目標としています。



2. 履修対象者

「島嶼学教育コース」を履修できるのは、本学大学院に在籍する学生です（科目等履修生、特別聴講学生を除く）。ただし、履修制限を設けることがありますので、当該授業科目を開講する研究科に確認してください。

3. 島嶼学教育コース

南西諸島からアジア・太平洋島嶼域に展開する個々の島あるいは複数の島々が国家や地域を構成しており、大陸とは異質の自然・人間・文明上の特色を持つ空間を形成しています。鹿児島大学は、本土最南端に位置する総合大学として、伝統的に南方地域に深い学問的関心をもつ研究者が多数おり、南西諸島からアジア・太平洋島嶼域を重視した様々な教育・研究を行ってきています。

鹿児島大学は島嶼域の問題について、大学の資源を集中し先進的かつ統合的な教育・研究を推進するとともに、各研究成果を地域に還元しています。全学横断的教育プログラム「島嶼学教育コース」は、島嶼に関する様々な分野の授業科目を履修することにより島嶼地域の様々な要請に応え、国際島嶼社会でも活躍できる人材の育成を目指しています。

4. 費用

「島嶼学教育コース」を履修する際の費用は必要ありません。ただし、受講科目によっては、交通費等の実費が必要になる場合があります。

5. カリキュラム等

- (1) 「島嶼学教育コース」は、各研究科で開設する授業科目から構成されます。
- (2) 「島嶼学教育コース」の修了要件は、コア科目（4単位）及びオープン科目4単位以上です。
- (3) プログラムで修得した単位は、当該学生が所属する研究科の定めるところにより、当該研究科の修了要件として認定されることがありますので、所属する研究科に確認して下さい。

島嶼学教育コース開講科目

| 開講時期 | 前 期 | 後 期 |
|----------------|------------------------|-------------------------|
| コア科目 (必修) | 島嶼学概論Ⅰ (人文社会学研究科) | 島嶼学概論Ⅱ (農学研究科) |
| オープン科目 (選択) | 離島・遠隔保健学特論 (保健学研究科) | 文化人類学特論 (人文社会科学研究科) |
| | 植物生態学特論 (理工学研究科) | 島嶼・海浜生物教材研究 (教育学研究科) |
| | 東南アジア漁業特論 (水産学研究科) | 水圏生態学特論 (理工学研究科) |
| | 離島医療学 (医歯学総合研究科) | 国際農業資源学特論 (農学研究科) |
| | | 島嶼海洋生物学特論 (水産学研究科) |

コア科目

島嶼学概論Ⅰと島嶼学概論Ⅱは「島嶼学教育コース」の修了のための必修科目です。

島嶼学概論Ⅰ：総合島嶼学（前期）

島嶼学概論Ⅱ：自然環境学（後期）

東南アジア島嶼部を含む南太平洋多島域は、文化的、自然的に連なるスペクトラムである。この多島域は大小様々な島々からなり、自然環境は変化に富み、人々の生活ぶりはその自然および歴史に根ざした文化環境と深く結びついている。日本も太平洋に面し、多くの島々からなる島国で、南太平洋多島域と自然的、文化的に深く結びついている。鹿児島県は長崎県に次いで島の数が多く（605島）、南北600kmに28の有人島が広がる。離島面積と離島人口は全国第1位で、有数の離島県である。これらの離島は、温暖で豊かな自然環境、伝統文化、郷土料理など個性に満ちた島々である。これらの多島域を多面的に理解し、深い洞察力を養うことを目指している。

島嶼学概論Ⅰでは日本から太平洋に至る島々に関して人々の生活と社会の特徴や島嶼域の振興策について講義を行う。また、講義の一部を三島村の硫黄島で実施し、三島村を多面的に理解する。島嶼学概論Ⅱでは日本から太平洋に至る島々に関して人々を取り巻く環境や資源に関する講義を行う。また、講義の一部を十島村の中之島で実施し、十島村を多面的に理解する。

オープン科目（前期）

離島・遠隔保健学特論

離島は保健医療の特殊相として論じられることが多いが、何が特有であるかについて必ずしも明らかではない。保健医療の体系は地域性を重視して立案されなければならない。そこで、離島を含むべき地医療対策の現状と推移を概説し、地域性に基づいた保健医療サービスの立案、実践の能力を修得することが本特論の目的である。

植物生態学特論

植物生態学では数値データの複雑な解析が必要な時がある。そのために開発されたソフトが基盤センターなどのコンピューターには導入されているが、高価なので卒業後などにいつも使えるとは限らない。そこで、本講義ではフリーソフトで誰でも入手しやすいRというソフトを中心として、その使い方とデータ解析法を習得する。

離島医学特論

鹿児島県の離島をモデルに、離島医療の特徴、救急医療、プライマリ・ケア、抱える問題など医療に関するテーマと、離島における疾患の特徴、がん予防、循環器疾患予防、疫学研究、タラソテラピーを活用した介入試験、HTLV-I母子感染予防、食生活習慣と長寿、長寿の宿主背景など予防に関するテーマについて学ぶ。

東南アジア漁業特論

漁業の国際的な流れを背景として、東南アジア漁業の特徴及び我が国漁業との関係について学び、持続的漁業を実践するための問題点や施策について視野を深める。さらに国際文書・論文類を理解する高度なレベルの知識を得る。

オープン科目（後期）

文化人類学特論

最初に、東アジアや東南アジア、オセアニアの島嶼社会・文化に関する人類学的研究について、研究の現状や特徴について紹介する。次に、これら島嶼域の社会や文化に関する諸研究から得られる知見が現代社会のよりよい理解や直面する諸問題の解決にどのように有効であるか検討する。

島嶼・海浜生物教材研究（集中）

島嶼の沿岸に見られる原生生物の「有孔虫」について学ぶ。有孔虫の仲間である「星砂」は奄美や沖縄での観光みやげとして知られている。「星砂」は生きている有孔虫が作り出した殻である。有孔虫は、その殻の形態で分類される。島嶼の沿岸で、有孔虫を採取し、理科教育的・環境教育的視点で有孔虫を学ぶ。

水圏生態学特論

西太平洋の熱帯域の島嶼部に発達するサンゴ礁生態系と日本列島の主要な内湾に発達する河口汽水域生態系を中心に、生物相の特徴や、生物種間の相互関係を学ぶ。英文テキストの熟読と日本語書籍の関連図書の熟読を必須とする。

国際農業資源学特論

世界的な開発が進む中で、農業資源としての植物種は急速に消滅しつつある。島嶼においても例外ではなく、むしろ、開発が進むことにより、周囲への移動が困難である島嶼では独自の生物が簡単に消えてしまう危険性が高い。本講義では島嶼も含めた熱帯地域における農業の現状と、栽培方法、作物などを通じて、農業資源の重要性を考える。

島嶼海洋生物学特論

奄美から南太平洋にかけて分布する海洋生物の生態や水産資源としての利用、開発と環境保全について具体的な事例を通じて基本的概念を学ぶ。受講生は、学部レベルの生物生態学や水産生物学の知識を必要とする。



6. 修了証

「島嶼学教育コース」の所定の単位を修了した学生は、大学院の課程修了時に修了証を授与します。

7. 履修手続について

履修登録は期のはじめに各研究科の教務事務担当窓口で行います。受講する場合は、「島嶼学教育コース」の時間割及びシラバス等を参照して、履修申請を行ってください。

8. 時間割及びシラバスの確認

時間割は、鹿児島大学ホームページの「教育・学生生活」の教育欄に大学院の講義概要を掲載していますので確認してください。

9. 全学横断的教育プログラムの掲示等について

周知事項などの掲示は、鹿児島大学ホームページの「教育・学生生活」の中に「在学生の皆さま」がありますのでクリックして「大学院共通科目履修案内」で確認してください。

* 「大学院共通科目履修案内」をクリックすると、大学院共通教育システムがありますので利用してください。(ID・パスワードが必要です。ID・パスワードの初期値は、学籍番号と西暦の生年月日です。利用後は、変更をお願いします。)





表紙写真説明 表上：ミクロネシア連邦モキール環礁

表下：加計呂麻島

裏上：沖永良部島

裏下：屋久島

【お問い合わせ先】

■学生部教務課大学院係

電 話：099-285-7346

E-mail : kdaigaku@kuas.kagoshima-u.ac.jp

■所属する研究科の教務担当係

